鶴城中だより

文責
校長
田上明利
No.8

自分自身に誇りを

自己肯定感とは、「自分が、誰かに必要とされている」と、自らの価値や存在意義を肯定できる感情のことです。自分の良いところも悪いところも含めて自分のすべてを肯定できる前向きな感情といっても良い。自己肯定感が高ければ、自分に自信があり、何事にも挑戦していくことができるようです。

古代ギリシャの寓話に三人の石切職人の話があります。

『昔、一人の旅人が、石を運んでいる石切職人たちに出会い、何をしているのか聞いたところ、一人目の職人は、何を当たり前の事を聞くのだと、つまらなそうな顔をしてぶっきらぼうに答えました。

「見りゃわかるだろう、石を運んでいるんだ。お金を稼ぐためさ。」とてもイライラした表情でした。

旅人は、二人目の石切職人にも、同じ事を尋ねました。職人は汗を拭いながら答えました。「この大きくて固い石を切りだす為に悪戦苦闘しているのさ」無表情でしたが、イライラした表情ではありませんでした。

三人目の石切職人は、目を輝かせ、とても嬉しそうに張りのある声で、「人々の心の安らぎの場となる教会を造っている。私は、その素晴らしい教会を夢見て石を切り出している。」と答えました。

この寓話のように、同じことをしていても、自分自身の意味合いや価値を何につなげるかによって、気持ちや行動は違ってきます。

自己肯定感は、成功体験の積み重ねと周りの者からの賛辞等によりどんどん高まります。鶴城中のすべての生徒の自己肯定感や自己有用感が高まるよう、認め、ほめ、励まして、生徒の夢を育み、個々の能力を伸ばしていきたいものです。

目指す学校像を着実に

鶴城中学校最後の一年が、あっという間に半分過ぎてしまいました。この一年の目指す学校像として「子ども、保護者、地域住民から信頼される学校」「よき伝統を継承し、いつまでも記憶に残る学校」、合言葉として「最後の一年、悔いを残さず有終の美を飾る」を掲げ取り組んできました。

5月の体育大会の大成功に始まり、6月の中体連大会の活躍、夏休み期間中の各種行事の頑張り、中体連陸上大会での活躍などたくさんの行事に真剣に取り組んできました。そして、現在は文化祭や駅伝大会に向けて懸命に頑張っています。

山鹿市のホームページには市長日記というコーナーがありますが、4月10日に、次のような言葉をいただいていました。

本日10日(火)は、市内の小・中学校の入学式でした。(中略)

午後は、鶴城中学校の入学式に出席しました。学校再編により、本年度末で閉校する予定です。

新入学生は19名でしたが、少ない数だからこそ生まれる凄い力があります。

最後の一年に懸ける熱き思いが、子ども達の表情や、先生方の挨拶に表れて、感動いっぱいの入学式でした。

そして、約半年後の9月13日に次のような言葉をいただきました。

本日13日(木)の午後、先日行われました第40回少年の主張熊本県大会において、優秀賞に輝いた山鹿市立鶴城中学校3年の森本貴幸君が、校長先生や担任の先生と一緒に報告に来てくれました。

「地道な努力の先にあるもの」と題しての発表であったとの事。「題材がすばらしい！第2位ということで九州大会出場は叶いませんでしたが、必ずその悔しさが今後に活かされるでしょう。頑張ってください！」と激励し、お祝いいたしました。

今年で歴史に幕を下ろす鶴城中学校は、昨年に引き続き、素晴らしい成績を収めてくれました。熊本県中体連陸上競技大会にも、山鹿市代表として2名が参加するとのこと。生徒数が少ない中にも、母校を愛し、誇りを持って懸命に頑張る姿は、とても美しく輝いていました。「ありがとう！鶴城中の子ども達！」

地域の行事への参加を含め、小規模校であるために一人一人に何度も出番があります。授業においても、毎時間、何度も発表の機会があります。生徒たちは、本当によく頑張っています。充実した毎日を過ごしています。

残り半年、めざす学校像の実現に向け、生徒と教師が合言葉を胸に、さらに、努力を継続していきたいと思っています。

どうか、来る最後の文化祭(7日)、鶴城中として参加する最後の駅伝大会(16日)とも保護者の皆様、地域の皆様のご来場、そして子どもたちへの応援、励ましをよろしくお願いします。

文化祭で披露する全員合唱、お楽しみに！

朝夕のトレーニングを真剣に頑張っています。